

デザインノート

No. **22**

デザイン×コピーの名作、傑作、話題作の裏側

2008

How to make a design,
Top Creators &
Their Workflows.
"DESIGN NOTE"

デザインとコピー

アートディレクターとコピーライターの最高の仕事

デザインノート今号の特集は、細谷巖と秋山晶、副田高行と仲畑貴志、水口克夫と谷山雅計、米村浩と佐藤澄子、佐々木宏のデザインとコピーのパートナーシップを徹底紹介。

巻頭は、TCC賞発表、岡康道と川口清勝

と佐藤可士和による鼎談。他、「白」原研哉

展、水谷孝次「Merry」、追悼野田凧。



TOPIC 3

Merry Project (北京オリンピック開会式・六本木ヒルズ)

水谷孝次

「あなたにとってMerryとは、何ですか？」

このシンプルな問いかけを世界中の人々に投げかけ、メッセージと笑顔の写真を集めているMerry Project。2008年の盛夏、北京と東京でMerryな笑顔の花が咲いた。

構成・文 = 中島光一 Nakashima Koichi 写真 = Paul Gilham (上)・Streeter Lecka (下) ゲットイメーجز





メインスタジアムに咲いた子どもたちの笑顔。そのうち1100枚以上は水谷が世界23カ国で撮影したもの(上の写真は、北京オリンピック開会式総監督 張芸謀氏からお礼に贈られたDVDより)



張芸謀氏からお礼に贈られたDVD

贈呈されたDVDは、北京オリンピック特別コレクションの珍藏版。外カバー、ケース、盤面には張芸謀氏のサインとメッセージが入っていた。「北京オリンピック開会式に提供して頂いた美しい笑顔に感謝します」「ありがとう! この笑顔は、世界で最も美しい!」



張芸謀氏から届いた感謝の手紙

水谷さんが提供してもらった1100枚の笑顔の写真を使わせて頂きました。北京オリンピック開幕式にとっては、輝きがより一層増えました。本当に感謝しています。毎回リハーサルでそれらの笑顔を見る度に、すぐ水谷さんの情熱とお助けを思い出します。もし水谷さんの写真とアイデアがなければ、我々は残念な気持ちと欠陥がたくさん残るでしょう。水谷さんが提供してもらった写真を決して忘れません。そして、その輝かしい笑顔も決して忘れません。今回の笑顔と同様、水谷さんの人生もいつも太陽の光に包まれるように、お祈りします



水谷孝次 Mizutani Koji

1951年愛知県生まれ。'77年日本デザインセンター入社。'83年水谷事務所設立。東京ADC賞、ポスター広告電通賞、JAGDA新人賞、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ金賞、NY・ADC金賞など、国内外で数々の賞を受賞。'99年のラフォーレ原宿を皮切りにスタートしたコミュニケーションアート「Merry Project」は、東京、ロンドン、神戸、愛知万博、そして北京オリンピック開会式への参加。そして六本木ヒルズでの「Merry Garden!」へと進化を遂げている
<http://www.mizutanistudio.com>



北京オリンピック委員会へ見本として送った「Merry Project」作品



張芸謀氏が絶賛した「Merry Project」ホームページ
<http://www.merryproject.com>

プロセスまでデザインする そんな哲学が実現した最高の舞台

水谷孝次が貫き続ける仕事の哲学。それはたとえ小さな芽であっても見逃さず、自らの手で大きく育てていく。つまりプロセス自体もデザインである、という考え方だ。そんな水谷の哲学が、北京オリンピックでいかに発揮されたことになった。

2008年8月8日、北京オリンピック開会式。壮大なスケールで繰り広げられる華やかな演出の終盤、スタジアムに子どもたちの写真があふれ大きな歓声が沸いた。1100枚以上の写真は水谷が提供したものだ。

なぜ水谷の写真が採用されたのか。「笑顔」というキーワードでインターネット検索していたところ、北京オリンピック開会式で使用する写真の公募、という情報がヒットしました。まさに「Merry」だと感じた私は、オリンピック委員会と連絡を取るため「ネクション」を探すとにしたのです。

残念ながら水谷がいくら声をかけても、誰からも好意的な返事は得られなかった。しかしここからが水谷の本領発揮である。

「英語が堪能な事務所のスタッフに指示して、北京オリンピック委員会に直接電話で問い合わせたところ、とんとん拍子に担当部署につながり、最終的には資料としてMerryの作品を送ることができたのです」

水谷の作品を見た開会式の総監督・張芸謀(チャン・イーモウ)はいたく感動し、水谷と北京で会う機会をつくってくれた。

「当初、オリンピック委員会は写真をすべて公募で集めようと考えていたようでした。だから私は言いました。はたして途上国からの応募があるでしょうか。北京オリンピックのスローガン「一つの世界、一つの夢」を表現するのであれば、決して国や肌の色、貧富などの偏りがあったはならないと」

水谷の訴えが効いたのか、その後イーモウ総監督と北京オリンピック委員会は方針を転換。水谷が提供した子どもたちの写真が開会式で大輪の花を咲かせることになったのである。⑦



「Merry Garden!」で繰り広げられた多彩な催し

熱戦で盛り上がる北京オリンピックと同じ頃(2008年8月8日～)、東京六本木ヒルズはMerryな笑顔であふれていた。ワークショップやチャリティなど……「Merry Garden!」の全貌を大公開しよう。



六本木で開催されたもうひとつのオリンピック

北京オリンピックへ向けて準備を進める水谷のもとに、六本木ヒルズで「Merry Project」をやってほしいという依頼が届いた。日本と北京で同時に子どもたちの笑顔の花を咲かせよう。そんな気持ちで取り組んだのが「Merry Garden」だ。

水谷は「Merry Project」を進化させ、工口ハットをテーマに掲げ、そして、色とりどりの花が咲く庭のように、たくさんの笑顔があふれる地球であってほしい、という想いを「Garden」という言葉に込めた。

「Merry Garden」では2008年8月8日～8月31日の期間中、さまざまな趣向を凝らしたイベントが開催された。まず北京オリンピックの開会式にあわせて8月8日～8月17日の間は、六本木ヒルズの玄関、メトロハットを子どもたちの笑顔で一杯にし、Merry撮影会を実施。さらに四川大地震の復興支援など、アジアをMerryにするための募金箱を六本木ヒルズ各所に設置、募金してくれた方には、「Merryのたね」をプレゼントした。また8月9日には、東京農業大学の入江憲治講師の協力を仰ぎ、六本木ヒルズ毛利庭園前の広場で、世界のイネとお米の話やオリジナルタペストリーを作るワークショップが行なわれ、参加者には「Merryの森セット」がプレゼントされた。

まだまだある。じつはイベントのために、どんなりの苗を提供してくれた岐阜県郡上市は、六本木ヒルズのある港区の姉妹都市。その郡上市でも「Merry Garden」にあわせて「Merryの森」を誕生させ、植物を育てるワークショップなどが行なわれた。

驚いたことに水谷は、北京オリンピックの準備と並行して「Merry Garden」の企画・運営のすべてに関わっている。たとえば岐阜県郡上市などへの協賛依頼も自らが行ったそうだ。依頼されたことをやるのではなく、できることすべてをやる。そのプロ세스すべてが、アーティレクター水谷の仕事なのである。⑦

Merryチャリティ

Merry×赤十字の募金箱を設置。募金をしてくれた方には「Merryのたね」をプレゼント。集まった募金はアジアをMerryにするための義援金となった

Merryのたね



Merryの森

7月に岐阜県郡上市に誕生したMerryな森。9月にはMerryな家も誕生し、ゆくゆくは農業を体験できるMerryファームや、Merry Eco Villageなど、森ではさらなる拡張を計画中



Merry Message CD,DVD

世界中の人々の声と映像のメッセージ、今までのMerry Projectをまとめた、CDとDVD (CD 1,500円(税別)収録分64分7色展開 / DVD 1,900円(税別)収録分101分)

2008年度
グッドデザイン賞受賞



Merry Book

2008年12月初旬に「Merry Project」の今年の活動レポート、そしてこれからのMerryの未来を指し示すコンセプトブックの発表を予定。表紙には郡上の間伐材を使用(1,500円B6判)



Merryの森セット



Merryワークショップ

イネの話やどんぐりと小枝などを使ったタペストリーのデコレーションなど、子どもたちは熱心に取り組んだ。また参加者には「Merryの森セット」もプレゼント



Merry Tree & 撮影会

会場内には岐阜県郡上市から来た「Merry Tree」が設置され、Merryなメッセージを書き込んでもらったカードや、六本木ヒルズ内各所で行なわれた撮影会の写真が飾り付けられた



Merryな収穫祭

「Merry Project」のスタジオがあるビルの屋上「Merry Garden屋上農園」では、世界中のイネ23品種や野菜が、この度収穫祭を迎えた。秋からは新しい野菜に入れ替えられる

